

令和5年1月10日
東京都医師会 定例記者会見

年末年始の高齢者施設等の状況

東京都医師会（自宅療養・高齢者施設担当）

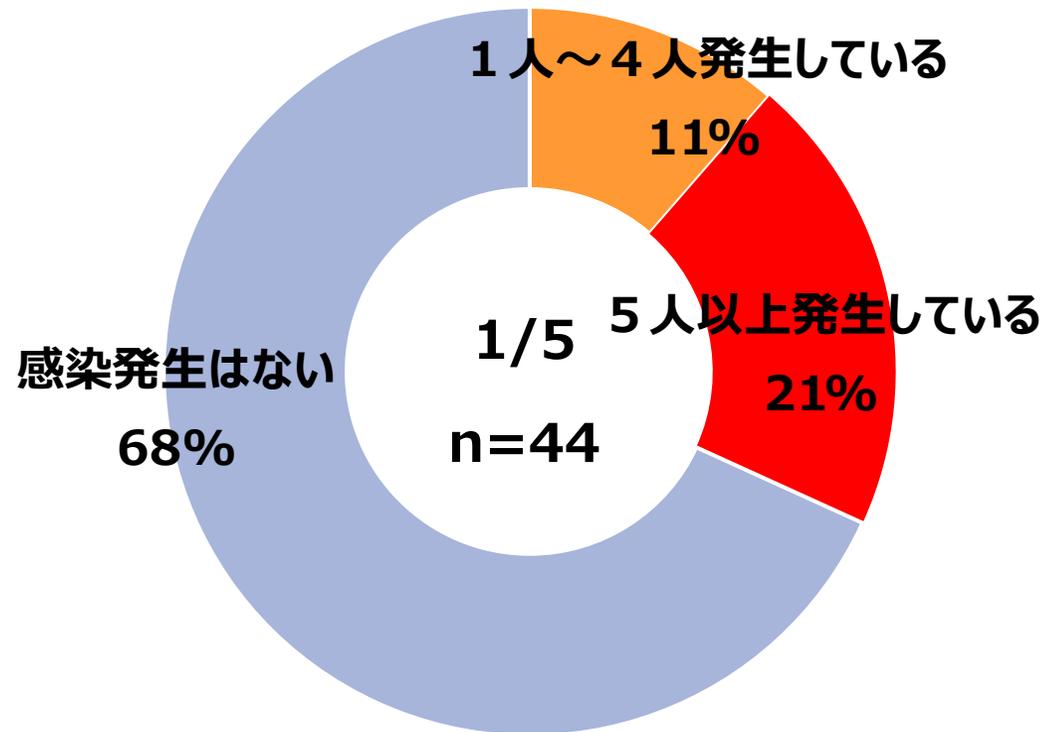
副会長 平川 博之

理事 西田 伸一

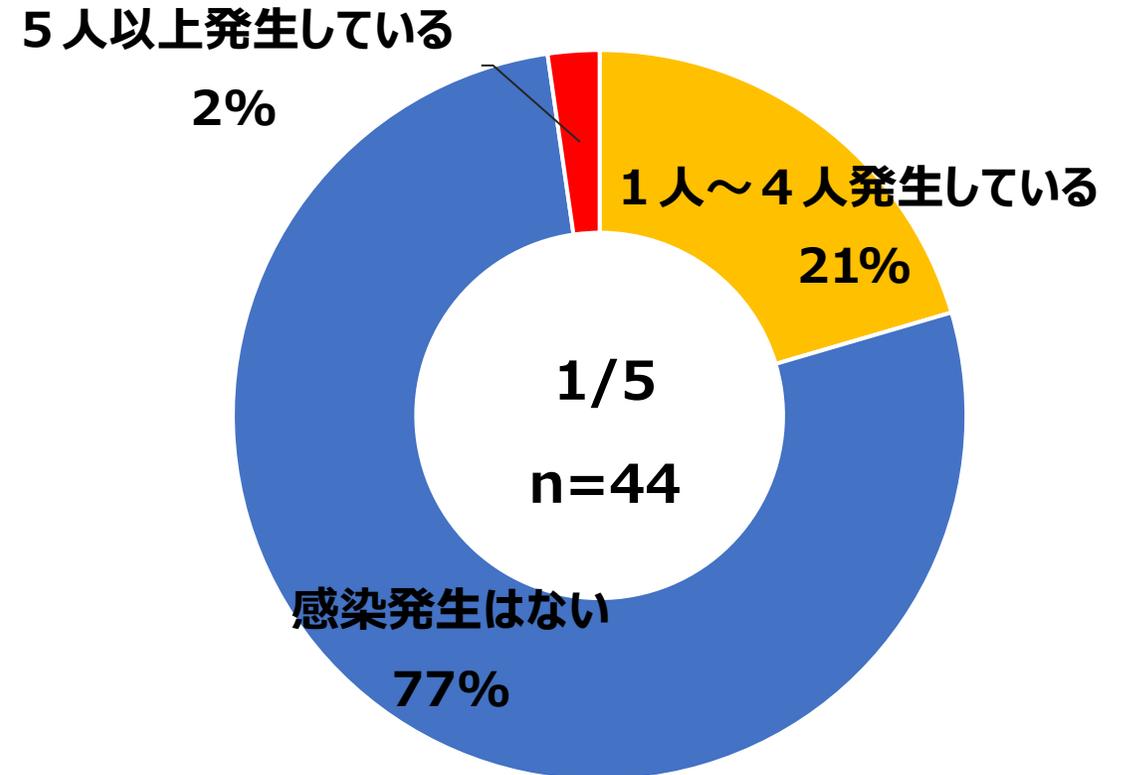
理事 土谷 明男

理事 佐々木 聡

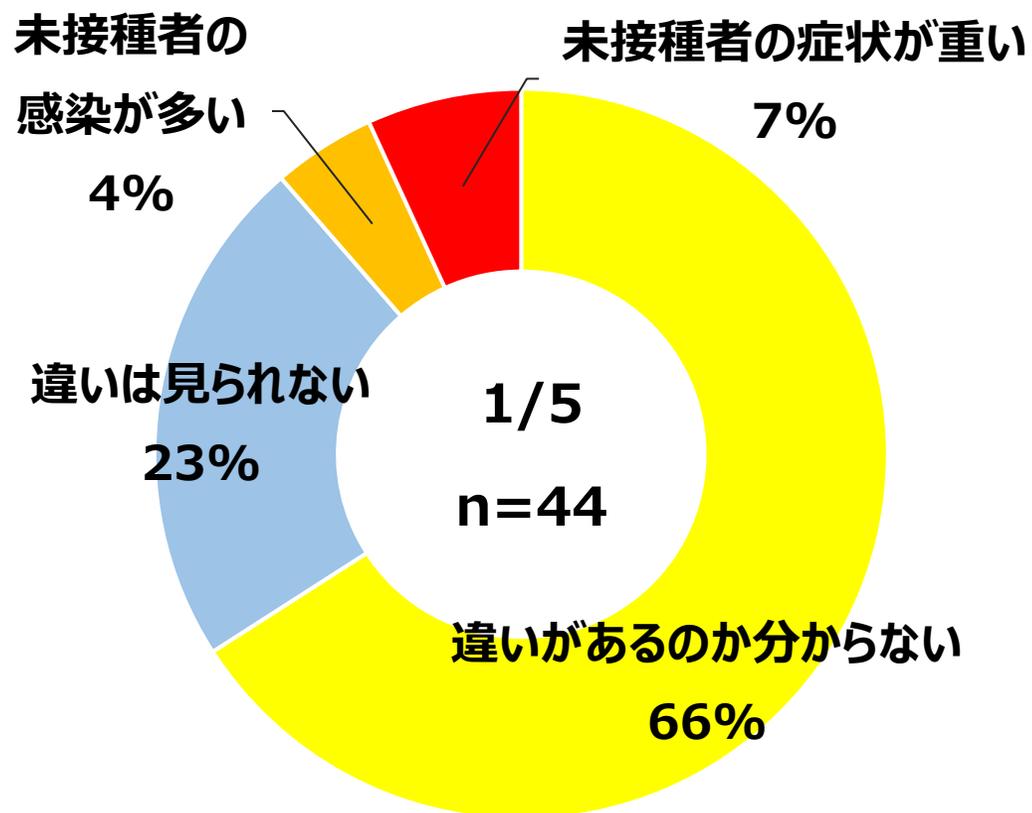
1. 入所者の感染発生状況



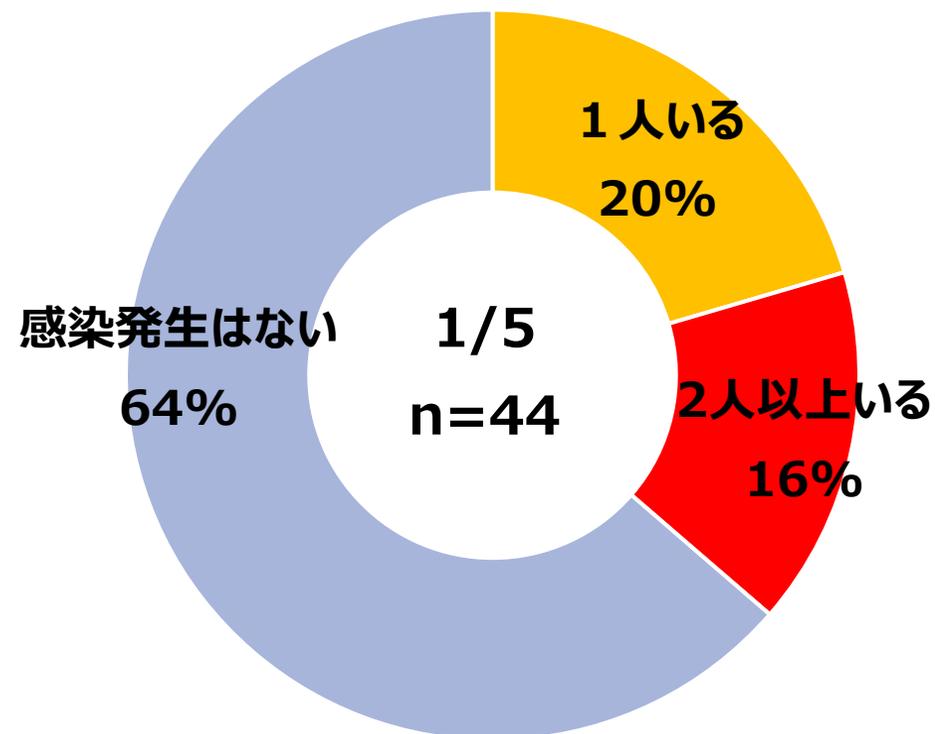
2. デイケア利用者の感染発生状況



3. 入・通所の感染者について ワクチン接種の有無で症状に差異はあるか

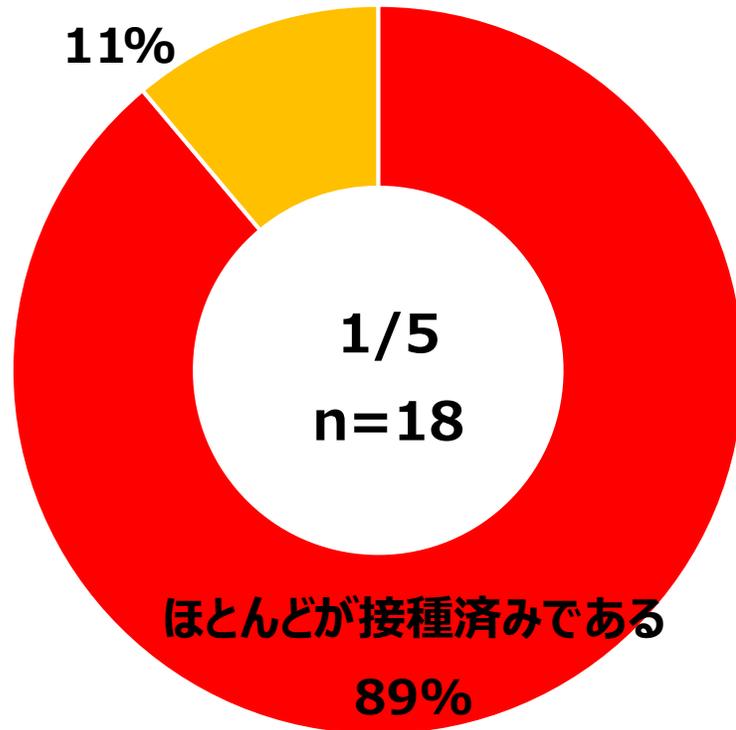


4. 入・通所の感染者で2回以上感染したケース

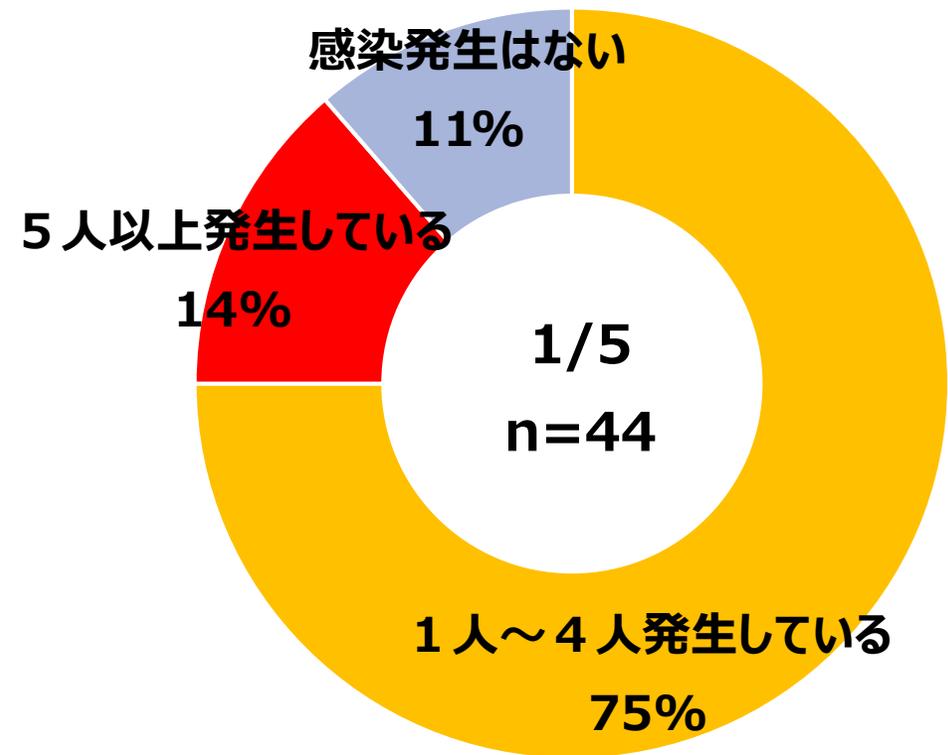


5. 2回以上感染したケースの ワクチン接種の有無

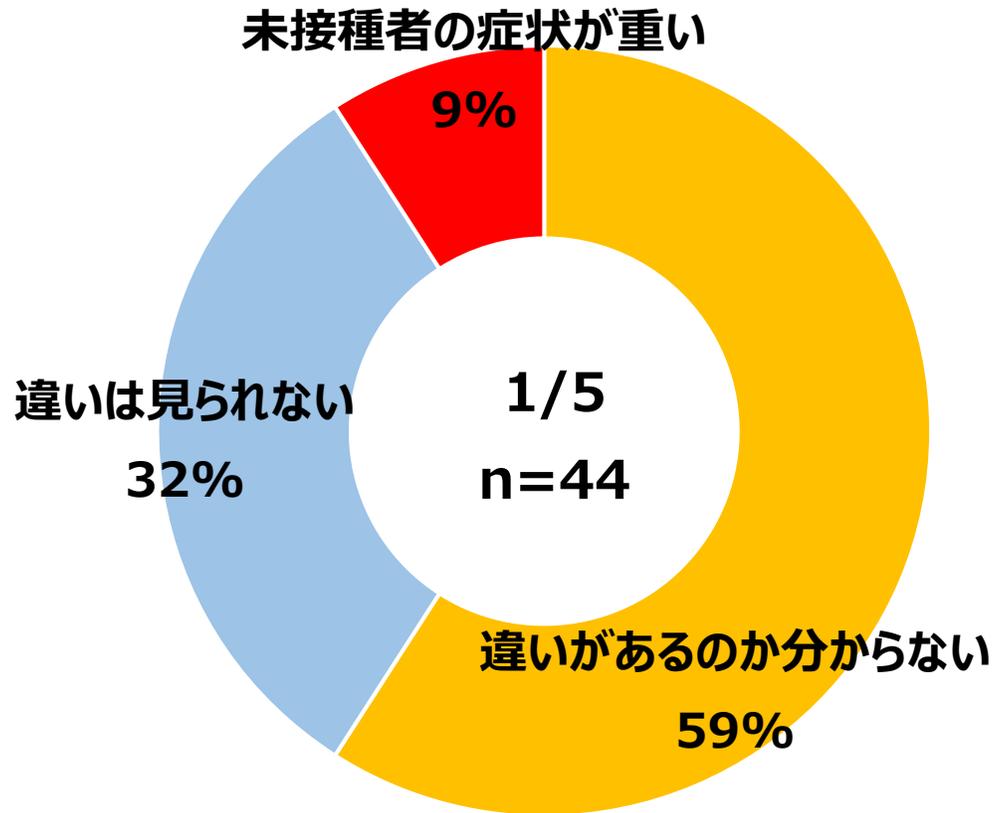
未接種者も接種済み者もいる



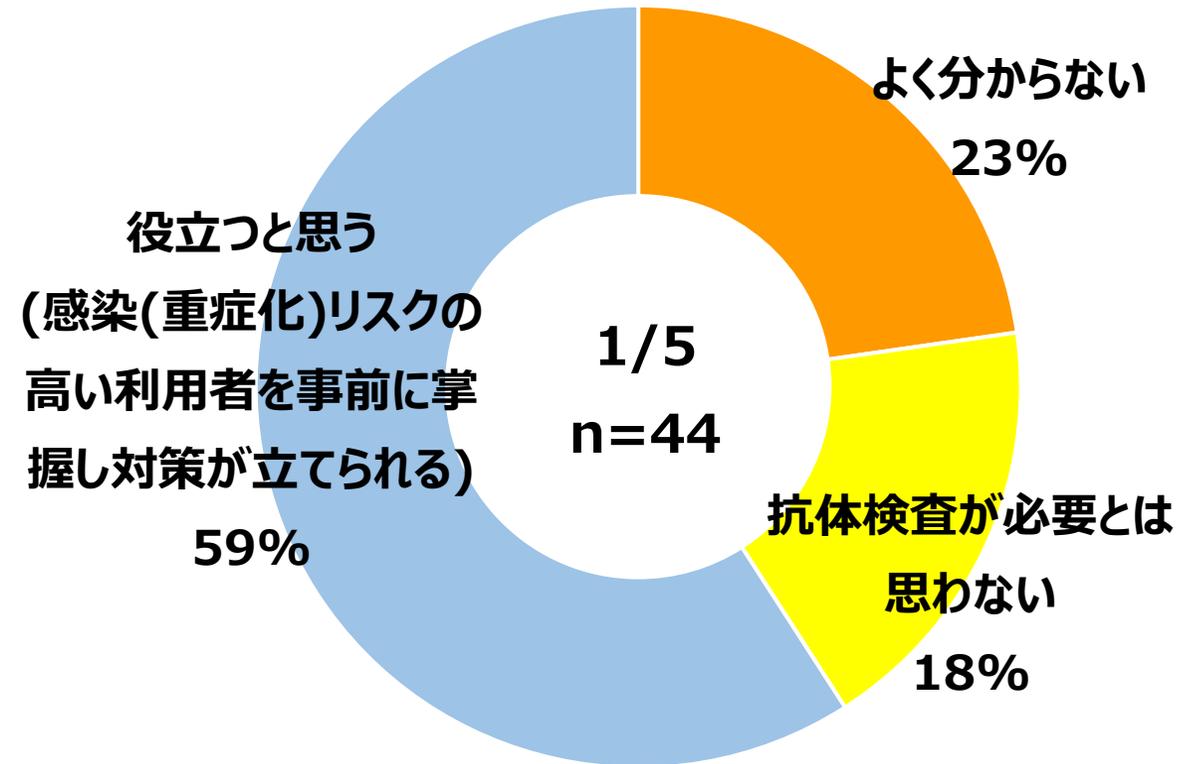
6. 職員の感染発生状況



7. 職員の感染者についてワクチン接種の有無で症状に差異はあるか



8. 抗体検査は感染防止や感染発生時の対策に役立つと思うか



感染対策等行政への要望や意見

- 東京都が実施している高齢者施設対象の「PCR等集中的検査」は感染発生時、疑い時のスクリーニングに役立っているため、類型変更後に終了となることを恐れている。継続を要望する。
- 世間と介護施設との間の新型コロナに対する認識のズレが、以前以上に大きくなった（「まだ面会を制限するのか」との不満の声が出ている）。この先、なし崩しになるのでは不安である。
- 行政には、施設への助成等の様々な支援は緩めないでいただきたい。
- 保健所からの陽性者に対する日々の体調確認連絡について、クラスター発生時に関しては、施設医師の判断で必要時に施設から保健所に連絡する流れにして欲しい。
- 単独型老健はバックアップが得にくく、感染者が出ると機能不全となる。優先入院させて欲しい。
- 直接面会を可能にするため、ハード面の改装費用等の環境整備に対する補助を要望する。
- オミクロン株以降、どれだけ感染予防対策をしても侵入を防ぐことは出来ない。侵入することを前提とした新たな対応策が欲しい。

結 語

- 高齢者施設のワクチン接種**：出足はやや悪かったが、概ね順調に推移している。
- 高齢者施設の感染状況**：職員経由の感染が中心だが、感染ルート不明も増加。
ワクチン接種効果もあり、感染による重症化は減少。
一方、ワクチン接種者・感染既往者の再感染も増えてきた。
- 高齢者施設クラスター**：第7波に比較し現時点ではクラスター発生はまだ少ない。
年末年始休み明けで社会が動き始めてからが課題。
- 施設内療養**：一部では厳しい状況にあるが、余裕はないもののギリギリで凌いでいる。
抗ウイルス薬等の入手ルート等に改善が求められる。
- ウィズコロナにむけて**：
 - 重症化率・死亡率等、高齢者とその他とでは大差がある。両者を区別したメリハリのある対策メニューを。感染弱者である高齢者に対するワクチン接種、検査・治療、衛生材料等への公的支援の継続は必須である。
 - 新たな一手として、抗体検査の普及・実証研究等を推進したい。